



iPad の活用 ～ key note をつけた支援 ～

長野県伊那養護学校 竹内恵里華

【事例】

自閉症の男子生徒 A さんは、日頃から集団での活動が難しく給食の時間以外はほぼ教室には入らず、静かな場所や好きな空間を見つけて過ごしている。以前は思い通りにいかなかったり、自分の要求が満たされなかったりすると、他害や自傷、癩癩を起すことも多くあった。

A さんは学校の敷地内にある寄宿舎の建物に入りたい思いが強かった。「寄宿舎の人しか入れません」という理由を職員から聞かされていたが、それでは納得できず、日々入りたい気持ちを抑えられずに、癩癩や他害につながることもあった。そこで口頭で「唾はタオルに吐くよ」等の約束を伝えたが、わざと床に唾を吐く姿も見られるようになった。A さんはひらがなが読める生徒だったので、生徒が携帯している iPad の key note を使い、イラストと文字を使って「どうしたら入れるのか」を下記のように伝えることにした。



上記の画面を見せながら職員が話をすると、よく画面を見て、その日以降は自分から「足が汚い人はだめ！」「女子棟はだめ！」と笑いながら職員に伝え、寄宿舎に入ろうとすることは、ほとんどなくなった。そんな中でも、時々入りたくなってしまった時に、職員が上記の約束を確認すると癩癩を起すことなく、寄宿舎に入れないということに納得できるようになった。

【まとめ】

日頃から口頭での簡単な指示を理解することはできるが、視覚的に伝えることが A さんにとっていかに効果的かを実感した。今回の事例以外にも、調理の手順や当日の急な変更、約束事など日常的に key note を使って説明しているが、画面をよく見て理解して行動している姿が見られる。また、以前は思い通りにいかない癩癩を起していたことも、イラスト付きで理由を伝えると、納得して受け入れられるようになり、自傷はなくなり、癩癩や他害もほとんど見られなくなった。Keynote はパソコンの PowerPoint のようなアプリなので使い方も簡単で、いつでもどこでも視覚的に A さんに大切なことを伝えることができる。このことが、A さんにとって安心して学校生活をおくれるための 1 つのであるように感じた。